

佐世保市立相浦中学校

所在地 佐世保市川下町277番地

校長名 森寄 眞悟

生徒数 458名 学級数 17



教育目標 自ら学び、心豊かで、たくましい生徒の育成

校訓 今日も、明るく、誠実に

1 目的

本校生徒に実践してほしい事は、次の二点である。第1は、校訓「今日も、明るく、誠実に」の実践である。この言葉は、たとえ辛いことがあった次の日であっても、明るく前向きに、笑顔で真面目に真心を持って信頼できる人へ成長してほしいとの願いがある。第2は、学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒なろう」の実践である。中学時代の目標の1つとして自立がある。自分から何かをやろうと（チャレンジ）することが大切である。その為には保護者や先生から言われて学習するのではなく自ら学ぶ習慣を作ること。学校では授業以外にも多様な体験活動があり、その活動を通して友との絆を大切にし、他者を思いやる豊かな心を育み、逞しい体と精神力を身に付けることである。

2 本校のモットー

「 凡事徹底 」 ～偉大なる凡人たれ～

「 自律自助 」 ～気づき 考え 行動する～



3 本年度のテーマ

- ◎ 豊かな心を育む教育活動の実践
- ◎ 美しい学校づくりの実践
- ◎ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育活動の実践

4 実践内容

◎相浦文化が育む自ら学ぶたくましい生徒の育成

(1) 凡事徹底の文化

本校の優れている点は、全校生徒が落ち着いた学校生活を送り、大きな生徒指導上の問題がないことである。このことは、毎年、4月当初にモットーを掲げ全職員で共通理解のもと生徒達に徹底した指導を実践してきた成果である。今年度も「凡事徹底～偉大なる凡人たれ～」、「自律自助～気づき 考え 行動する～」を掲げ、当たり前前を当たり前前にできるために、徹底して指導して定着させる取り組みを実践した。今年度も「授業前の黙想」を継続するとともに、「無言清掃」では清掃場所ごとに集合し、生徒会が放送をかけて黙想を呼びかけ、清掃活動の充実が図ることができた。また、全校生徒が「挨拶・返事・時間厳守・整理整頓」で日本一になることを目指し日々の学校生活を意欲的に送ることが





できた。

平素より、身近な生活・学習の場に視点を置くことで、美化に対する意識の向上をねらいとし、校舎外の環境美化に力をいれることとした。今年度14年目になるこの取組は、花の種類は変化していくものの、専門委員会の活動継続により、地域にも知れ渡るようになった。また、登校時に毎朝、各生徒がゴミ拾いを行うことが本校生徒に良き伝統として根付いている。生徒達の美化意識を高揚させることが美しい学校づくりの一助となっている。今年度は、「学校菜園助成金」、「学校緑化事業補助金」の交付をいただき生徒に栽培活動を通じた充実した活動を実施することができた。

さらに、毎朝、曜日ごとに言葉を決め、8時15分より全校生徒が唱和する「朝礼5訓」の取り組みが6年目を迎え、職員・生徒ともに定着した活動となり、意識の高揚に繋げることができた。社会の常識として「挨拶・返事・時間を守る・整理整頓」を徹底的に指導し身につけさせることは、変化の激しい未来を生き抜く生徒に必要な不可欠で有り、不易の教育実践である。今後も生徒達が常に向上心を持ち学校生活を送ることで、「凡事徹底」の文化を良き本校の伝統として継承していきたい。

(2) ほめる文化

本校は平成25年度～26年度の2年間、佐世保市教育委員会の指定を受け授業改善に取り組んだ。その研究の成果を生かし、全職員が共通理解のもと、授業改善と学力向上目指し「ほめ、認め、引き出す」授業展開を実践した。ほめる習慣はプラスの発想の習慣であり、ほめられたことで喜びは大きく自信に繋がり、同じ事でも何度もほめるということを経験指導の下、教育の眼目「相手の魂に火をつけ全人格で導く」を掲げ、各教師が授業の中で実践する「相浦中学びのスタイル」を定着させることで自己肯定感を育成し学力向上を目指している。

また、3年前から実施している全校生徒の授業アンケート結果を各教科担任が確認することで個々の生徒の実態を把握した授業展開を実践したことも一助に繋がっている。本校生徒は「凡事徹底の文化」が浸透しており、真剣に授業に臨む姿勢が身につけてきている。今後もこれまでの取り組みを定期的に検証し、繰り返し実践することで確実に学力も向上するものと確信している。

(3) つながる文化

様々なつながりが生む学校生活の充実には生徒達の生きる力の育成に直結するのである。本校は校区内に大学、短大、高校、小学校、特別支援学校がある。

今年度はコロナ禍にあり制限された中でも、できる範囲で様々な行事を行った。例年5月に実施していた1年生の野外宿泊学習も11月に延期し、飯ごう炊爨を行い、自然の中で友達と協力し活動した。

2・3年生で実施していた佐世保特別支援学校との交流も今年は実施できなかったが、特別支援学校の先生にお越しいただき、学校の様子などをわかりやすく説明していただき、本校からはメッセージカードを送るなど、今できる交流学习を継続することができている。

また、今年は長崎短期大学や佐世保実業高等学校とも連携し、専門の先生方から直接学ぶ機会が増えた。コロナ禍で地域行事がすべて中止となり交流ができなかったが、次年度以降、落ち着いたら実施していきたい。



(4) 部活動が盛んな文化

本校は86%の生徒が部活動に入部し、意欲的に取り組んでいる。部活動で人間性を高める事を目標とし、決して勝利至上主義になることなく全職員が常に生徒に寄り添

い愛情を持って丁寧に指導に当たっている。特に、規則を守ることを重点的に指導している。部活動での人間形成と健やかな体づくりは生徒達の成長に必要な不可欠なものである。本年度はコロナ禍で各種大会等も中止・延期となる中、これまでと同様に素晴らしい活躍が見られた。市中学校体育大会では、柔道団体（男子）、空手団体組手（女子）、ハンドボール（女子）、バレーボール（男子）が優勝、空手団体組手（男子）、ソフトテニス団体（男子）、バレーボール（女子）が準優勝と様々な競技で上位入賞した。その後、新チームに代が変わっても勢いは継続し、ハンドボール部は九州大会出場を果たした。



(5) 夢を夢で終わらせない文化



3年生では、例年6月に相浦・日野地区で職場体験学習を実施してきたが、今年度コロナ禍のため10事業所の方にお越しいただき職業講話を行った。事業所の方からの話を聞くことで、職業観・社会性自己の生き方などを学び、今後の進路選択に向けて目標を明確にし、学習意欲を高める良い機会となった。今後コロナウイルス感染状況が落ち着いたら、地域の多くの方々に本校生徒の姿を見ていただき、その良さを知って

いただき、「開かれた学校づくりの推進」を前進させていきたい。

12月には1、2年生においては高等学校の先生方を招聘しての高校説明会を実施し、その内容を各高校別に情報機器を活用しまとめさせた。その内容を学級で発表することで将来の目標について、具体的に考える機会となった。今後も3年間の学びを系統的に実践していくことで、生き方を考え、夢を持たせ、夢を叶えさせる教育活動を推進していきたい。



◎GIGAスクール構想に向けての取組

(1) 毎日パソコン入力コンクール

次年度から本格的に一人一台パソコンが導入されることになり、活用していくためにもタイピング技能の向上が求められる。そこで、今年度は技術・家庭科の授業開始に継続してタイピング練習を行ってきた。昨年度から継続してきた2年生は、少しずつではあるが、目標の3級（5分間に200文字）に到達する生徒数が増加してきた。次年度以降も継続して実施することで、さらなる技能向上に努め、授業でパソコンを活用できる力を身に付けさせたい。

(2) 遠隔授業の準備

本校は、校区に高島地区があり、これまで通学する船が不通の場合、高島分校でプリン

	1年	2年	計
準1級	1	1	2
2級	1	2	3
準2級	2	4	6
3級	7	19	26
4級	4	8	12
5級	5	10	15
6級	3	7	10
7級	8	7	15
8級	14	12	26
9級	15	11	26
10級	14	4	18
10級-B	21	13	34
10級-C	14	5	19
10級-D	15	5	20
10級-E	21	19	40
計	145	127	272

ト学習などを行ってきた。今年度、市総合教育センターの協力を得て機材等を整え、本校の授業を遠隔で実施する準備を進めてきた。今後は、GIGAスクール構想で導入されるパソコンを活用し、不登校生徒、別室生徒等へも授業へ参加できる体系づくりを進めていきたい。

5 成果

- ① 豊かな心を育む教育活動の実践では、本年度のモットー「凡事徹底」～偉大なる凡人たれ～を全校生徒に浸透させ、学校全体で取り組んできた。また、全校で学校教育目標等を唱和する「朝礼五訓」を実施し、有意義な朝のスタートを実践した。その結果、生徒達の自覚も高まり、新たな良き伝統を築きあげている。さらに、全国・県・市の学力調査結果から、学力の向上が図れた学年や教科があることが窺える。これは、全職員共通理解のもと実践した「相浦中学びのスタイル」や市が推進するめあてとまとめを中心とする授業作りの実践、授業アンケートを実施することで教職員の意識の変容が窺えたことによるものが大きく影響している。
- ② 美しい学校づくりの実践では、地域からも好評価を得ている玄関前の花壇の整備など、良き伝統に継続して取り組むことで、生徒に責任感と愛校心を育成できたことは大きな成果である。また、清掃前の黙想を取り入れ、「無言清掃」を実践することで生徒の更なる意識の高揚に繋げることができた。
- ③ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育活動の実践では、生徒たちに体験活動を中心とした教育活動を取り入れることで、将来の生き方を考える良い機会となっている。また、地域の恵まれた環境を活用した学習（佐世保実業高等学校からのキャリア講演会、佐世保特別支援学校との交流、ふるさと歴史発見学習など）を実践することで郷土愛と自然を愛する心を育成することができた。更に、多数の文化的・体育的な地域行事への参加を通して、地域の方々には本校生徒の姿を見せ、その良さを理解していただくことで、「開かれた学校づくりの推進」を大きく前進させたこと、地域と共に生徒が自ら考え決定し実践する力を身につけたことは、新学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」の実践に結びつく大きな成果である。
- ④ GIGAスクール構想を見据え、生徒一人一人がパソコンを活用できる状況を作るために、タイピング練習を行ってきた。日々の練習においても、各自で目標を持ち取り組むことができている。2年生は、継続してきた成果が大きく表れてきた。また、遠隔授業ができる準備も整った。今後、休校になった場合や船舶の不通時、または不登校、別室登校への学力保障に繋がることは大きな成果である。

6 課題

- ① 今後の本校の大きな課題はさらなる学力向上である。基礎基本の定着が不十分な生徒がいる。この課題解決に向けて校長指導の下、取り組みの検証を定期的に行い、生徒の実態に即した「学びのスタイル」の実践と規律ある学校づくりをさらに充実させ、「チーム相浦」で授業改善を推進していくことが課題である。また、来年からの学習指導要領完全実施に向け、「主体的で、対話的で、深い学び」となるよう、全職員で一層の研修を積んでいく必要がある。
- ② 熱い教師集団が全力で生徒を育てる姿勢を持つこと。そして、悩み事には親身になって対応し、生き抜く力をつけさせ、愛情にあふれる教師文化を構築し定着させることが重要である。
- ③ コロナ禍で多くの行事が延期、中止となったり、規模の縮小という形での実施となった。今回のことを機に、3学期制移行に向けて、学校行事等の見直し等を含め、教育課程を検討していく必要がある。
- ④ 今後生徒がパソコンを活用できる状態になって、進学してくることが考えられる。パソコンを効果的に授業に活用できるようにする教師のスキルアップが不可欠である。さらに校内研修の充実を図っていかなければならない。